



## 1. 大阪府池田市

- ・視 察 者 鈴木健一、米山真澄
- ・視察場所 大阪府池田市立神田小学校
- ・視察日時 令和3年11月18日(木) 午後1時30分から午後3時
- ・視察項目 タブレットを使つてのギガスクールについて  
小中一貫教育について  
その他関連事項について
- ・対 応 者 大阪府池田市立神田小学校校長 谷田真知子 氏、教頭 柏 茂昭 氏

### ・視察目的

神田小学校におけるタブレット端末の利用について、調査・研究することを目的に視察を実施した。

### ・要旨(報告事項)

神田小学校では一昨年度から活用する力を育む国語科の授業改善というテーマで国語の学習を中心に自分の考えを伝え合う場を大切に、互いに認め合う力を育てる取り組みの研究を行ってきた。その中で自ら問いを持ち、その問いを解決するために習得した知識技能を活用することを大切に、言語活動まで見通した単元計画授業づくりを行ってきた。

今年度は、昨年度まで授業改善を軸に全教科領域に活用する能力の育成を広げ、研究を進めているところである。様々な教科領域で自ら問を見出し探求することの楽しみを味わうと共に粘り強く取り組み、学びを見いだす子どもの育成を目指している。

また、昨年度のタブレット導入以降、様々な教科や学習の場面でICTを活用してきた。この一年間で児童もタブレットを使用した学習やタイピングにも慣れ、タブレットの運用は順調に進んでいた一方で漢字の書き取り能力の低下や処理の乱れ等の課題も見えてきた。

ICT活用の研究を進めるだけでなく、それによって生まれる課題についても冷静に見極めていく必要がある。そこで、今年度は全教科領域に活用する能力の育成を広げると共に各教科領域におけるICT活用の有効性の研究を副題に研究を進めることとした。

### ・視察結果、所感

各授業すべてにおいてタブレット端末を使用して、教師、児童ともにタブレット端末を使いこなしていた。教師間格差、児童間格差が生じていないか、その格差をどのように埋めているのか。そのあたりが疑問であったが、研修を多くやり、教師間の格差を埋めていた。児童間の格差がどのくらいあるのか。そこはわからないが、授業で多くとりいれることで、児童が端末によく慣れているようであった。導入に関しては、タブレット端末がいじめの道具になることをしっかりと自覚してもらうために、道徳の授業を最初しっかりとやってから、授業への導入というプロセスを踏んだということであった。

## 2. 奈良県橿原市

- ・視察者 鈴木健一、米山真澄
- ・視察場所 橿原市役所
- ・視察日時 令和3年11月19日（金） 午前9時30分から午前11時30分
- ・視察項目 駅前開発について  
PFIを活用した市役所庁舎とホテルについて  
その他関連事項について
- ・対応者 企画部プロジェクト推進局副部長 熊本光伸 氏  
企画部プロジェクト推進局資産経営課分庁舎管理室室長補佐 中村智彦 氏

### ・視察目的

橿原市の駅前開発事業について、調査・研究することを目的に視察を実施した。

### ・要旨（報告事項）

橿原市では、駅前開発として、平成13年度に地下駐車場及び民間事業施設を整備した。事業費は、35億3,700万円。  
事業に対する提案内容は、地下駐車場等の整備（駐車場203台、駐輪場1,023台）、また、民間事業施設の整備（温浴、クリニック、保育、住居施設）。しかし、事業の実施に対し、既存組合の理解を得られず事業は中止となった。  
平成19年度、近鉄八木駅前市有地活用検討委員会から「ホテル誘致を中心とする市有地の活用は、複数の民間事業提案者を求めることが適当」と提言があった。  
事業方式として、PFI法に基づくBTO方式を採用。民間事業者SPCを受注者とし、施設整備費は事業期間中に割賦料として一般財源から民間事業者を支払う。  
施設の概要は、合築方式により、地上10階、地下1階の施設であり、提案時から変更した点は、2階から4階はコンベンションルームを配置し、駐車台数を71台から69台に変更し、計画を実施した。

### ・視察結果、所感

東松山市同様、事業は紆余曲折があったようである。PFI手法による事業であり民間活力を利用しての事業である。コロナ禍でもあり、開発に伴う観光への影響額などは不明であり、これからPRしていくとのことであった。